

(提案書 様式①-1 アイデア審査・最終審査)

 <p style="text-align: center;">協働の機会提案書(新規提案用)</p> <p style="text-align: right;">2025年 6月 20日</p> <p>(あて先) 印西市長</p>	
<p>(登録者) 登録番号 04-006</p> <p>名称 産前産後ケアINZAI</p> <p>所在地 印西市西の原</p> <p>代表者 小川可奈</p> <p>連絡先</p> <p>E-mail niconico.ball.park@gmail.com</p> <p>企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。</p>	
<input checked="" type="checkbox"/> 自由提案型 <input type="checkbox"/> 指定テーマ型	
<p style="text-align: center;">提案事業名</p>	<p>児童館での親子で楽しみながら出来る体力気力回復のための産後ケアバランスボール教室</p>
<p style="text-align: center;">現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>当教室は、母親のみならず児童が遊ぶように体力気力を自ら生み出し、自律神経・ホルモンバランスを整え健康を増進し、情緒を豊かにすることが期待できます。</p> <p>また現在、日本では産後うつや育児放棄、ネグレクト、産後クライシスなどの社会問題が顕在化しており、産後の体力気力回復とコミュニティ形成が緊急の課題となっています。特に、産後の体力や筋力低下、そして「適度な有酸素運動」の機会が不足していることが指摘されています。本事業を通じて、これらの課題を解決し、産後ケアを強化することが必要です。</p> <p>(※産後うつでいうと、2025年5月に埼玉県や千葉県松戸市で起こった生後4カ月の男の子が亡くなった事件が記憶に新しいかと思えます。このような悲しい事件を起こさないためにも、孤独になりがちな産後ママのケア・サポートすることが必要なのが現状です。)</p> <p>また、印西市における子育て世代の増加とそれに伴う子育て支援のニーズの高まりを受け、産後の体力気力の回復と地域での孤立防止を目指します。特に、睡眠不足や精神的ストレス、ホルモンバランスの乱れなど、産後特有の心身の不調を抱える母親に対し、児童館という身近な場所で適度な有酸素運動とコミュニティ形成の機会を提供し、安心して子育てができる環境づくりに貢献します。</p> <p>体力気力のための産後ケアはまだ広く知られていないということもあり、産後のママは休めば良いと思われがちですが、産褥期を過ぎたママには、妊娠・出産・休息で落ちた体力や筋力を鍛えて、子育てしていくための心身のケアが必要なのです。</p> <p>※ここでいう産後ケアというのは「適度な有酸素運動」を取り入れることで、産後の体力・気力不足を解消し、自律神経を整えることもでき、育児を楽しめる身体と心を作っていきます。また、医療用バランスボールを使用することで、筋力が落ちた体で</p>

	<p>も負担が少なく、産後のママにも手軽に行える有酸素運動です。</p>
<p>提案理由</p>	<p>児童館を拠点とした体力気力回復のための産後ケア教室を継続的に実施し、印西市の子育て支援体制を強化します。これにより、地域の母親の心身の健康増進、子育て世代の生活の質の向上・産後うつや児童虐待・ネグレクト・産後クライシスなどの社会問題が軽減することで、子供にとっても幸せな環境づくりに繋がります。</p> <p>さらに、地域コミュニティの活性化も期待できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 複数の児童館で教室を開催する事で、参加者が予定に合わせて教室を選択することが可能となります。 ● 児童館という、親も子も気軽に利用できる近隣の施設を使用する事で、児童館の先生達と顔見知りになり、子供も安心して参加することができ、ママにとっても相談しやすい環境作りの一端を担うことが出来ると考えられます。
<p>提案内容 (予算の概算は提案書様式①-4)</p>	<p>年間を通じて、開催可能な各児童館で年6回(予定)「親子で楽しみながら出来る(体力気力回復のための産後ケア)バランスボール教室」を定期開催します。</p> <p>本教室では、以下の要素を組み合わせた内容を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ①有酸素運動での体力回復および自律神経の調整:バランスボールを用いた効果的かつ、負担の少ない有酸素運動で、産後の体力気力回復を促進します。子供の成長ホルモンを促し、体力UP・内臓機能の活性化・骨格調整・睡眠の質の向上・セロトニン(幸せホルモン)の分泌増など、多岐にわたり効果が期待できます。また、赤ちゃんを抱っこしても行える運動なので、親子の肌のふれあい(スキンシップ)・オキシトシン(愛情ホルモン)の分泌促進、子の情緒の安定にも繋がります。 ● ②セルフケア:骨盤周り、肩こり・腰痛のセルフケアを中心に産後特有の身体の不調に対するセルフケア方法を指導します。それらの解消により、母親の身体の土台が整うことで、子の精神面・生活の質の向上にもつながります。また、母親の血流がアップすることで質の良い母乳の分泌にも繋がります。 ● ③参加者同士・親子のつながりづくり、メンタルのケア(コミュニケーションワーク):参加者同士の交流を促し、情報交換や悩みの共有ができる場を提供します。これにより、孤立やネグレクト・産後クライシスを防ぎ、精神的なサポートを図るとともに、子供の幸せな環境づくりに繋がります。 <p>教室の周知方法として、オフラインでも手に取って頂ける冊子・リーフレットを児童館の窓口を設置していただくことで、SNSを利用していない方にも広げていくことが可能となります。</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>当団体は、出産経験のある女性で構成され、助産師、理学療法士、食養リーダー、一般社団法人体力メンテナンス協会認定の産後指導士、体力指導士、バランスボールインストラクター、産後ケアアンバサダーなどの専門資格を持つ講師陣が在籍し、当教室の講師も担当します。</p> <p>子供の発達段階に応じたアドバイス等(子供にとってのホルモンバランス・自律神経</p>

	<p>調整などの有酸素運動のメリット)や、赤ちゃんの寝かしつけにもなる実技指導、日常生活の中で継続できるセルフケア方法(自分の体の内側から生み出していく体力気力作り、自律神経、ホルモンバランス調整効果が期待できる姿勢と呼吸の方法等)などの指導も行います。</p> <p>現在、市内の保育園(星虹第二保育園・エンジェルハート保育園・HALO保育園)の子育て支援ルームにて、ママ向けバランスボールレッスンの定期開催のご依頼を受け、長いところでは4年以上の継続実績があります。(保育士さんは、お子様の興味に応じて対応いただき、安心して過ごせる環境と、ママにとっても自分の心身のケアに集中できる環境になっています。)</p> <p>2～5歳のお子様はママ同様にバランスボールに座って運動をすることができます。また、ボールで運動出来ない0～2歳は、抱っこで一緒に弾むことができます。</p> <p>団体としては、2年以上毎月1～3回の親や子・また多世代イベントを企画実施しており、活動の周知にも力をいれています。</p> <p>2023年度の印西市協働事業の実施実績あり</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 産後の体力気力の回復: バランスボールでの有酸素運動を通じて、効率的に心身の回復を促し、ストレス軽減にもつながります。 ● 母親の心のケアと孤立防止: コミュニケーションワークを通して、母親が自身の心と向き合い、不安を軽減し、孤立からくる精神的な負担を軽減します。 ● 子育て環境の安定化: 母親が心身ともに健康になることで、子どもとの健やかな関係を築き、安定した子育て環境につながります。 ● 児童館の活性化と地域貢献: 児童館が地域の子育て支援の拠点として機能することで、地域コミュニティ(参加者同士の繋がりづくり)の活性化に貢献します。

概算予算書

無償分を含む総事業費 (金 835,300 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 金 587,800 円

【歳入】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		587,800
提案者が負担する額		0
その他収入		0
無償分を含めない合計額		587,800
無償労働力等換算金額		(247,500)
無償分を含む総事業費		(835,300)

【歳出】

項 目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	講座及びプログラム作成 10,000円×5回=50,000円 冊子作成10,000×3回=30,000 団体内講師指導謝礼、交通費(3,500円×1人)×33回=115,500円 有償ボランティア謝礼、交通費(1,500円×1人)×33回=49,500円	245,000
印刷製本代	A4コピー(モノクロ) 33回×15人×2部=990枚=9,900円 A4チラシ(両面カラー) 9,000部=20,000円 (ラクスル) 冊子(12ページ)A5カラー2,000部=30,000円 (ラクスル)	59,900
報償費	外部サポーター謝礼(1,250円×2時間+交通費500円)×1人×33回=99,000円	99,000
消耗品費	消毒スプレー300円×5本=1,500、除菌シート(33回分)1,500円、 名札100円×33回×10人=33,000	36,000
ユニフォーム代	1枚2,500円×8枚=20,000円	20,000
通信費	参加者問い合わせTEL通話料11ヶ月分=3,300円	3,300
道具代	1個7,700円×計3個=23,100円(ギムニクバランスボール55センチ破裂防止機能付)、 子供用バランスボール45cm5,500円×3個=16,500円 子供用バランスボール30センチ4,000円×10個=40,000円 ヨガマット2,000×15枚=30,000円 ボール収納用トランクケース15,000円	124,600
無償分を含めない合計額		587,800
提案者が負担する 無償労働力(A)	(1,250円×2時間+交通費500円)×5回×2人=30,000円(市との事前打合せ) 1,250円×3時間×3人×1回=11,250円(印刷、製本) 1,250円×10時間=12,500円(チラシ・WEB制作) 1,250円×1時間×1人×33回=41,250円(準備撤収) 1,250円×10時間=12,500円(参加者フォローアップ)	(107,500)

提案者が負担する 無償機材等(B)	ボール収納用トランクケース1個、ポータブルスピーカー1個、 講師・サポーター用バランスボール3個、 参加者用バランスボール15個・参加者子供用バランスボール5個	(140,000)
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	(247,500)
無償分を含む総事業費		(835,300)

※上記金額は、提案内容を示す**概算予算書**です。アイデア審査通過後、提案書様式③にて詳細を提出頂き、最終審査で選定されます。

※歳出の項目例は29頁を参照してください

(提案書 様式①-1 アイデア審査・最終審査)

<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(あて先) 印西市長</p> </div> <div style="text-align: center;"> <h2>協働の機会提案書(新規提案用)</h2> </div> <div style="text-align: right;"> <p>R7年6月20日</p> </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 自由提案型 <input type="checkbox"/> 指定テーマ型 </div>	
提案事業名	カフェ型拠点を活用した包括型介護者支援事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	<p>印西市では、総人口が増加する一方で高齢化が進行しており、2040年には高齢化率が27.0%に達すると推計されている。この人口構造は、単に高齢者数が増えるだけでなく、多様な世代が共存する中での高齢者支援のニーズが複雑化することを意味する。特に、ニュータウン地区における「<u>近所づきあいの希薄化</u>」は、既存の地域コミュニティが十分に機能しにくい状況を示唆しており、高齢者支援の基盤構築における課題となっている。</p> <p>介護者の負担は高齢化に伴い増大し、介護離職や子育てと介護を同時に担う「ダブルケア」といった複合的な課題に直面している。<u>多くの介護者は相談先が分からず、不安や悩みを抱え込み、自身の健康や生活を後回しにする傾向が見られ、「介護者の孤立」や「相談環境の不足」が深刻な問題となっていることを示唆している。</u>市民アンケート調査では、「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が市民ニーズとして上位に挙げられており、<u>相談環境の不足</u>が明確な課題として認識されている。</p> <p>さらに、介護サービスの利用について、「家族が介護するため必要ない」と回答する背景には、日本社会における「家族がケアを休む必要性」の認識の低さや、サービス利用への抵抗感があることが指摘されている。この文化的要因は、<u>介護者自身の心身の疲弊や精神的負担が表面化しにくい「隠れた負担」を生み出し、「共倒れ」のリスクを高めている。</u>このような「<u>潜在的なニーズの掘り起こし</u>」と、「<u>レスパイトケアを含む適切な支援</u>」への接続が喫緊の課題である。</p>
提案理由	<p>上記のような現状は、介護者の孤立と潜在的な問題の深刻化を招き、介護者自身の生活の質だけでなく、介護を受ける高齢者の生活の質をも低下させるリスクがある。</p> <p>本事業は、このような介護者の孤立を解消し、<u>孤独な介護によって強い不安を抱える介護者を支えるための「拠点」を構築することを目的とする。</u>この拠点は、単なる情報提供の場に留まらず、<u>介護者が自身の潜在的なニーズに気づき、レスパイトケアを含む適切な支援につながるための「安心できる場」として機能する。</u>これにより、介護者の心身の健</p>

	<p>康維持と生活の質の向上という、印西市が高齢者福祉計画で掲げる新たな重点目標に直接的に貢献する。さらに、介護者が社会参加を継続し、自己実現を図る機会を提供することで、市が目指す「生涯輝くまち印西」の実現に寄与するとともに、地域全体の「互助」と「共助」の機能を強化し、地域共生社会の具現化に貢献する。</p>
<p style="text-align: center;">提案内容 (予算の概算は提案書様式①-4)</p>	<p>提案事業の「カフェ型拠点」は、印西市が認識する現状と課題、そして優先的に取り組むべき事項をより深く反映させるため、以下①②の機能と運営体制を拡充する。</p> <p>① 拠点機能の拡充</p> <p>ア 交流機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護者が気軽に集い、情報交換や悩みを共有できる場を提供することで、ピアサポートによる孤立解消と精神的負担軽減を図る。 ・ 新旧住民や多世代が自然に交流できるイベントやプログラムを定期的に行い、希薄化した地域コミュニティの再構築に貢献する。 <p>イ 相談支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家（医師・看護師・歯科・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・介護用品）などによる介護の困り事への個別相談を実施する ・ 行政サービスに関する情報提供だけでなく、介護者が「行政には相談しにくい」と感じる非公式な相談ニーズにも対応し、潜在的な問題の掘り起こしと早期介入を促進する。 <p>ウ 情報提供・啓発機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ノウハウ、介護保険制度、介護離職防止策、レスパイトケアの重要性に関する正確かつ分かりやすい情報を提供する。 ・ 特に、若い世代の介護者や就労中の介護者向けに、SNSやオンラインプラットフォームを活用した情報発信と啓発活動を強化する。 <p>エ 地域連携ハブ機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センター、医療機関、NPO、地域のボランティア団体、自治会など、多様な主体との連携を強化する。 ・ 本拠点を情報共有と協働の場として活用し、地域ケア会議への情報提供や連携を通じて、地域全体の包括的支援体制の強化に貢献する。 <p>② 運営体制の柔軟性</p> <p>ア 開所時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就労中の介護者も利用しやすいよう、夜間や週末の開所を検討し、多様なライフスタイルに対応する。 <p>イ アクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺、商業施設内、公民館など、交通の便が良く、介護者の日常生活動線上に位置する場所の活用を優先する。これにより、気軽に立ち寄れる環境を整備し、相談への心理的ハードルを下げる。 <p>ウ オンライン活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔地からの参加や情報提供のため、オンライン相談、オンライン交流会、ウェビナーの導入を積極的に進める。これにより、地理的制約や時間的制約のある介護者も支援を受けられるようにする。 <p>エ 人材育成</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護者支援に関心を持つ市民を対象としたボランティア養成講座を実施し、拠点の運営やイベント企画に参画させる。これにより、地域福祉の新たな担い手を育成し、持続可能な支援体制を構築する。
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット <small>(提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</small></p>	<p>本団体が「介護者のための交流拠点づくり事業」を協働で実施するメリットは、行政だけではカバーしきれないきめ細やかな支援を提供し、印西市の地域福祉・高齢者福祉計画の目標達成に貢献できる点にある。</p> <p>本団体は、地域に根差した活動を通じて、<u>行政機関には相談しにくいような非公式な相談ニーズや、個別のきめ細やかな支援を担うことが可能である。</u><u>介護者が抱える「隠れた負担」や潜在的な問題を早期に発見し、行政サービスへの円滑な接続を促すことで、行政サービスの補完と質向上を図る。</u>また、地域住民との信頼関係を構築し、介護者同士のピアサポートを促進することで、<u>行政が直接介入しにくい領域でのコミュニティ形成を支援する。</u></p> <p>これにより、地域全体の「互助」と「共助」の機能を強化し、印西市が目指す「つながりあい 支え合い 生き生きと暮らせるまち いんざい」の実現を加速させる。本事業は、単なるサービス提供に留まらず、地域における多機関・多分野連携の「ハブ」として機能し、地域共生社会のモデルを構築に寄与する。</p>
<p>事業実施により得られる効果 <small>(自由提案型は今後の展望も記入)</small></p>	<p>事業実施により得られる効果</p> <p>本事業は、高齢化社会における介護者の多様化・複雑化する課題（介護離職、ダブルケア、8050問題、若い世代の介護等）に対し、多角的な支援を提供することで、<u>介護者自身の心身の健康維持と生活の質の向上、ひいては人生の質の充実を強力に推進する。</u></p> <p>具体的には、介護者が自身の悩みや不安を気軽に相談できる「交流拠点」を設置することで、潜在的な課題を早期に「見つけ」、地域包括支援センター、介護保険サービス事業所、地域団体等の多様な関係機関・専門職へと適切に「つなげ」、切れ目のない包括的な支援を「支える」体制を強化する。</p> <p>これにより、介護者の孤立を解消し、互いに支え合う地域コミュニティの形成を促進するとともに、<u>行政サービスだけでは届きにくいきめ細やかな支援を提供することで、市民一人ひとりの生活と人生を尊重し、より安心して暮らし続けられる「地域包括ケアシステム」の実現に大きく貢献する。</u></p> <p>今後の展望</p> <p>将来的には、介護者の自由な時間を作るため、高齢者の短期間見守り（別添別紙参照）まで出来るようにしたい。</p>

(提案書 様式①-4 アイデア審査)

概算予算書

無償分を含む総事業費 (金 2,004,560 円)
うち市に負担を求める額 (委託費) 金 2,004,560 円

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		2,004,560
提案者が負担する額		
その他収入		
無償分を含めない合計額		2,004,560
無償労働力等換算金額		()
無償分を含む総事業費		2,004,560

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	講座準備 1100×2H×12回×3人	79,200
報償費	外部講師代 30000×2 市内講師代 15000×8	180,000
旅費	外部講師代 3000×2 市内講師代 1500×8	18,000
印刷製本費	IP作成・管理代半期 10000×2 チラシ 5000×12	80,000
保険料	840×12(月)×12(年)	120,960
使用料	会場使用料(どんぐりハウス)300×6H×4回(週1)×12(年)	86,400
食糧品費	500×20人×12(週3)×12(年)	1,440,000
無償分を含めない合計額		2,004,560
提案者が負担する 無償労働力(A)		()
提案者が負担する 無償機材等(B)		()
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	()
無償分を含む総事業費		2,004,560

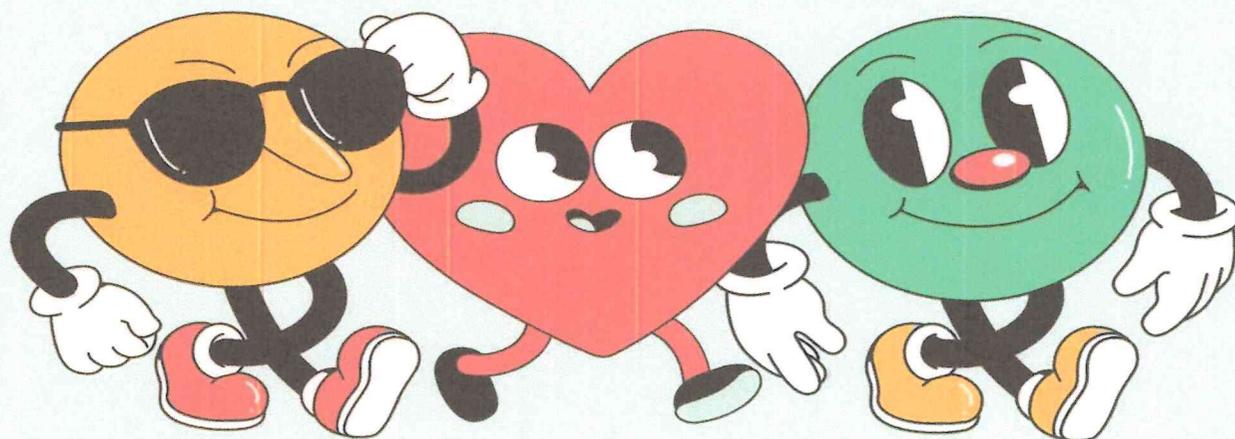
※上記金額は、提案内容を示す**概算予算書**です。アイデア審査通過後、提案書様式③にて詳細を提出頂き、最終審査で選定されます。

印西市 介護モデル提案

カフェ型拠点を活用した包括型介護者支援のしくみ

印西介護リアン

代表 上野昌世



印西介護リアン 紹介



遍歴

R5年4月、社会福祉協議会、市民活動支援センターの登録団体として「印西介護リアン」が誕生した。主な活動内容として「**介護者支援**」を目的としている。

提案2-1-6

市内五カ所にて「介護者同士の相談会」を開催。

翌R6年には三か月に一度の「**料理教室&ケアラズカフェ（民カフェ）**」を立ち上げる。

R7年現在、1月9日に開催した医療区での新春企画イベントがヒントとなり、新機軸として、食とマッサージで高齢者の短期間見守りを行う「**癒しのリアンカフェ**」の展開を模索中。**民カフェ**の発展形として、現行の保険サービスでは対応できない隙間支援を目指す。



印西介護リアンあゆみ



月一介護者同士の相談会



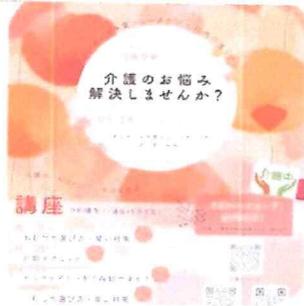
3ヶ月に一度料理教室 & ケアラーズカフェ



施設へカラフルスタイルさんと訪問



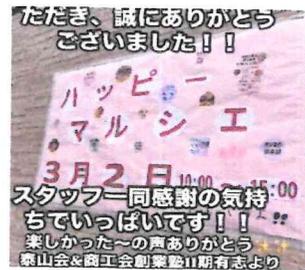
ふるさと祭り印西総合病院様



イオンホールにて



木下駅前



千葉NT駅前サザンクリニックにて 特養老人ホームアマポーラにて



癒しのリアンカフェ

民カフェ(パン+五種類マッサージ)

ぜひ是非!!

日々の疲れをリフレッシュしませんか?

日時1/9(木) 10時~14時30分

場所/地域密着型特養老人ホームアマポーラ

対象者/現在介護中の方、
専門職さん、地域の皆様



カイロプラクティック



肩揉み

こんにちは!!
印西介護アソです
「困りごと解決第二種」は感しおアソです。
自費のお仕事でお疲れの方や地域の皆さんにぜひこの
素晴らしい癒しをお届けしたいと思っております。
今回は、お掃除のマッサージから好評な方も多く
で、ぜひお楽しみください!!
ぜひ、リラックスしたい方は
お気軽に参加してください!!



ヘッドマッサージ



ハンドマッサージ



足揉み



aromaの響りと共に



イメージ画像

フーロンヌの美味しいパン(約150g)5個(税別)お楽しみください!!

1.お好きなマッサージ(5種類の中から選択)

ALL¥500(予約の必要なし)

2.サウンドヒーリング

横になって寝られる方は要予約!

第一部10時~12時

第二部14時~16時

持ち物 下に敷く物(バスタオルなど) 参加無料

3.お茶菓子とお喋り

参加無料(予約の必要なし)

印西介護アソ/【つながる〇企画】



つながる〇企画
地域を拠点に全国でオンラインイベント
を行っています!!
お問い合わせは
お電話03-5353-1191
またはLINE
アカウントまで

03-5353-1191



協賛/



COOPさん



クーロンヌのパン



心地よい
空間



子連れママ

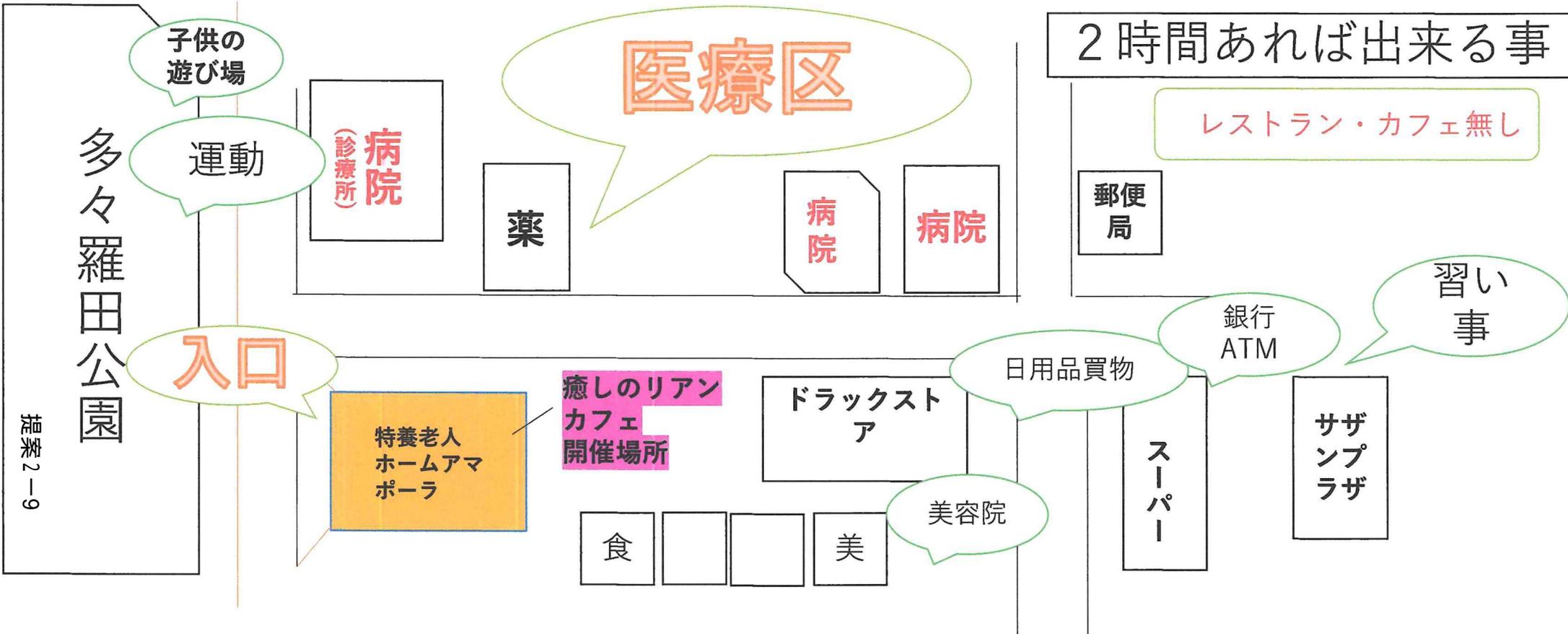


他施設専門職さん、地域住人
介護者さん、要介護者さん(写真無し)

お互い満足!
winwin



ここだ!!



提案 2-9

病院通い・散歩・運動・子供と遊ぶ・日用品買物・郵便局・銀行・マッサージ・ゆっくりとした食事・美容院・サザンプラザ(習い事)

病院：内科・小児科・皮膚科・歯科・外科・整形外科・泌尿器科・肛門科

R4データ印西 内野、高花、原山周辺人口12370人
 65歳以上3855人(31%)2030年には後期高齢
 者へ約4割(1542人)介護予想

医療区ほぼ中心地

丁目	人口	65歳以上	割合
松崎台二丁目	77	63	0.36
結緑寺	29	21	0.32
多々羅田	650	444	0.44
内野一丁目	966	690	0.37
内野二丁目	85	0	0
内野三丁目	394	161	0.15
山一丁目	559	366	0.26
山二丁目	587	385	0.32
山三丁目	350	189	0.24
高花一丁目	385	160	0.17
高花二丁目	139	110	0.34
高花三丁目	523	409	0.36
高花四丁目	334	316	0.43
高花五丁目	648	625	0.4
高花六丁目	1,975	1,641	0.12
草深	421	12	0.07
東の原一丁目	372	57	0.04
東の原二丁目	538	71	0.04
東の原三丁目	319	244	0.35
西の原一丁目	459	208	0.17
西の原二丁目		953	

Handwritten notes: 12370 (circled), 3855 (circled), 31% (circled), 1542 (circled). Vertical labels: 医療区, サガニョテ.



R4 データ印西より

現在、近くの食事場所



市民による市民の為の民カフェ 「癒しのリアンカフェ」

脳活性に良いマッサージ



+



ハンドマッサージ



ヘッドマッサージ



カイロプラクティック

様々な講座開催
地域のハブに



スマホ講座養
成講座など

情報は行政・包括に

提案2-11

👉介護者支援（協働事業）メインに、👉将来的には高齢者の見守り機能を追加

二時間、高齢者の見守りが出来れば・・・



FineGraphics

介護者の自由な時間を作る事が出来る。
要介護者も満足する作りに！！

介護対象者(嚥下食でない方)
歩ける方・車椅子の方 対象者/介護3まで

相談会困り事
認知症9割

お互い満足!
winwin



【民カフェ今後の展望】

- ・ 「年寄りだってワクワクしたい」 そんな声から生まれた、カフェ型拠点を活用した包括的介護者支援の仕組み「民カフェ」は、介護者や高齢者、地域住民が安心して立ち寄り、自然に情報やつながりを得られる場です。
- ・ 今ある地域資源を有効活用しながら、各拠点の特色に合わせたカフェを設置し、地域全体で支え合う仕組みを作っていきます。

カフェを中心とした重層的支援の展開

- ① 一時預かり機能の提供
- ② スマホ講座・認知サポーター養成講座・防災講座など
- ③ 行政や包括支援センターには相談しづらいことも、カフェを通じて気軽に情報が得られる環境づくり
- ④ メンタル・ネットワーク支援(人と人の繋がり)を通じた地域ネットワーク構築

各地の特色を活かしたモデル

- ① アマポーラ公園エリア：公園を活用した健康講座や移動動物園やバランスボール、モルック大会など(印西市都市整備課に確認済み)
- ② 内野どんぐりハウス：移動スーパーと連携し、小規模交流カフェを展開
- ③ 武蔵屋：文化と教育をテーマに、抹茶体験など日本文化を味わえる空間を設置

空き家・集会所の活用と巡回型支援

- ① 地域の空き家や集会所を活用し、多拠点展開
 - ② 施設バスなどの送迎車両を、空き時間に「カフェ巡りバス」や「移動支援バス」として運行
ポイント：病院近くのカフェ停留所に行く際、バス停での暑さ・寒さが辛く途中にあるカフェが涼しく「暖かく」「気軽に寄れる」休憩場所に！高齢者の移動や通院を無理なく支えるインフラになる。
- ※ 施設の送迎を終えた運転手が、一度帰宅せずに空き時間を地域就労として活用 ⇒ 移動支援・地域巡回に充て雇用創出にも貢献

【実効性の根拠：介護当事者アンケートより】

実施したアンケートでは、「カフェであれば1000円以内であれば無理なく使える」という介護者や地域の方の声が多数寄せられました。

この結果から、

- 行政の補助を抑えながらも介護者支援を届けられる
- 利用者自身も支え合いの一部として参加できる
- 財政的持続可能性が高い

という実現性の高いモデルであることが示されています。

【期待される効果】

- ① キーパーソンは支援を受けやすくなり、介護継続が可能に
- ② 市内経済が循環し、地域全体の活性化へ
- ③ 行政の財政的負担を抑えた持続可能なモデル

【最後に】

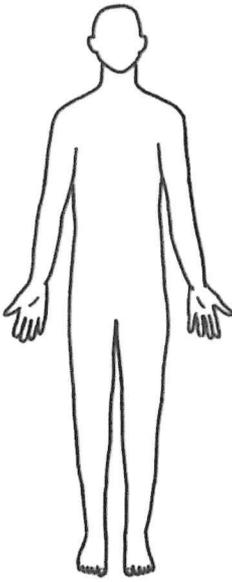
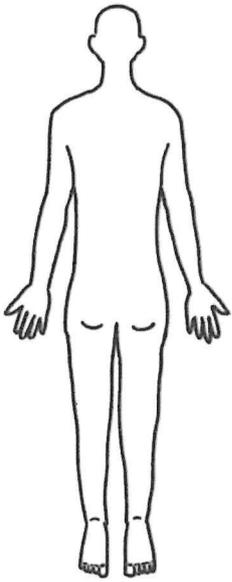
制度や福祉が届きにくい隙間に、「共感」「経済」「地域性」を活かした現実的で温かい支援モデルを。

ぜひこの仕組みを行政としても柔軟に取り入れ、印西市発の“支え合いモデルとして私たちに支援していただけないでしょうか？宜しく願いいたします。

フェイスシート

初回利用日： 年 月 日

フリガナ			生年月日	大正 昭和 平成	年 月 日	歳		
本人氏名	男・女							
住所	〒							
電話番号								
ご家族	氏名							
ご家族住所	〒							
緊急連絡先								
介護度	介護度なし	要支援1	要支援2	要介護 1	2	3	4	5
通所施設								

既往歴及び障害の状況	障害等の部位(麻痺・欠損・褥瘡など)
	<p>正面</p>  <p>背中</p> 

内服薬

☆内服(自立・声掛け必要・セッティング必要・全介助)

基本動作等の状況と援助内容

ADL	詳細	備考
歩行	<ul style="list-style-type: none"> ・自立・見守り・一部介助 ・杖の使用(有・無) ・歩行器使用(有・無) ・車椅子使用(有・無) 	
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・自立・見守り・一部介助 ・アレルギー(有・無) ・嚥下(問題なし・時々むせる・むせやすい) ・咀嚼(問題なし・肉など硬いものは噛めない・他) ・食事量(少なめ・普通・多め) ・その他: 普段使用している箸やスプーン・エプロン等あれば持参していただく 	
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・自立・見守り・一部介助 ・トイレへの声掛け(必要・いらぬ) ・尿意(有・無) ・オムツ使用(有・無) 	

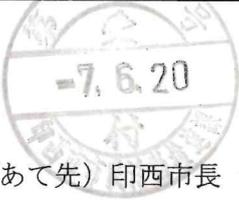
コミュニケーション能力	詳細	備考
聴力	右 (支障なし・よく聞こえない・全く聞こえない) 補聴器(有・無)	
	左 (支障なし・よく聞こえない・全く聞こえない) 補聴器(有・無)	
視力	右 (支障なし・よく見えない・全く見えない)	
	左 (支障なし・よく見えない・全く見えない)	
会話・意思疎通		

認知能力

認知症の有無・程度:

ご意見・ご要望

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)

 <h2 style="text-align: center;">協働の機会提案書(継続提案用)</h2> <p style="text-align: right;">2025年6月20日</p> <p>(あて先) 印西市長</p>	
<p>(登録者) 登録番号 06-004</p> <p>名称 一般社団法人SODO</p> <p>所在地 印西市小林 XXXXXXXXXX</p> <p>代表者 鈴木 広美</p> <p>連絡先 XXXXXXXXXX</p> <p>E-mail suzuki.hiromi34@gmail.com</p>	
<p>企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。</p> <p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/>自由提案型 <input checked="" type="checkbox"/>指定テーマ型 </p>	
<p style="text-align: center;">提案事業名</p>	<p>里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業</p>
<p style="text-align: center;">現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)</p>	<p>本事業は、本年度(令和7年度)にスタートした事業であり、令和7年4月に「いんざい里山グリーンインフラ推進協議会」を設置し、活動を開始しました。</p> <p>ここでは、令和6年度に協議会の設置に向けて開催した準備会での議論や、提案者らが生物多様性保全やグリーンインフラ推進に関連する取組等を進める中で把握したことなども含めて、印西市における里山の水循環と生物多様性の保全・活用、グリーンインフラ推進等の視点から、現状・課題を以下に示します。</p> <p>■市民等の自然環境の認識・ニーズとそれらを踏まえた理解醸成</p> <p>印西市は、「自然環境が豊かなまち」であり、市民等からは、「印西市に住み続ける、あるいは転居してきた理由の一つは『自然環境の豊かさ』である」といった声が寄せられています。</p> <p>一方で、千葉ニュータウン地区を始めとして、市街地近郊に豊かな自然環境があることを知らなかったという声も聞かれます。また、これらの自然環境が、生物多様性だけでなく、防災・減災、地下水涵養、水質浄化など、いわゆるインフラとしての機能を発揮していることは、まだ、あまり知られていない状況です。</p> <p>今後は、印西市の自然環境や、自然環境の持つインフラ機能を発揮していることを市民の方に知っていただくことが必要であり、印西市の自然環境の現状や、今後の保全・活用に向けた課題等について、分かりやすい情報発信を行い、市民の自然環境の保全・活用に関する理解の醸成を図っていくことが重要です。</p> <p>■自然環境の保全・活用を行っている団体等の現状把握</p> <p>印西市内には、里山等の自然環境の保全・活用に係る活動を展開している市民活動団体等が多く存在していますが、これまでの協議会等での活動を通じ</p>

	<p>て、各団体の活動内容の詳細やそれぞれの団体が抱えている課題などが十分に把握されていない状況であることが分かってきました。</p> <p>多様な主体との連携を推進するとともに、市民活動団体の課題解決や活動の量的・質的向上等を図るためには、<u>各団体の現状を的確に把握するとともに、団体間で継続的に課題を共有し、連携を図ることが重要</u>です。</p> <p>■行政(庁内部局)におけるグリーンインフラの理解促進</p> <p>グリーンインフラを推進することは、環境保全部局以外の行政部局において進められている行政施策の推進に資する場合も少なくありませんが、今のところ、グリーンインフラに対する理解が十分には進んでいない状況です。</p> <p>したがって、<u>効果的な施策推進を図るため、庁内関係部局のグリーンインフラの推進による効果等に対する理解を深めていただくことが重要</u>です。</p> <p>■事業者の課題・ニーズの把握とマッチング</p> <p>近年、企業によるネイチャーポジティブへの積極的な取組が急速に拡大しています。昨年9月には、自然を活かした豊かな未来に向けた企業と地域の具体的な連携のあり方を議論するシンポジウムが開かれ、その後、産官学連携によるネイチャーポジティブの推進に向けたプラットフォームの設置などが継続的に議論されています。</p> <p>また、印西市域の多くがその流域に含まれる「印旛沼流域水循環健全化会議、千葉県」においても、企業連携による水循環健全化の取組が積極的に展開されています。</p> <p>グリーンインフラの推進には、主体として取り組む企業や農業者、取組への参加や金銭的支援により協力する企業など、事業者と連携した取組が不可欠であり、そのためには、<u>事業者の抱えている課題やニーズ等を把握することが必要</u>です。その上で、<u>地域における取組とのマッチングや技術的支援</u>などが求められます。</p>
<p>提案理由</p>	<p>■背景</p> <p>近年、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」いわゆる<u>ネイチャーポジティブの取り組み推進</u>が国際目標となり、我が国においても、生物多様性国家戦略に反映されるとともに、自然共生サイトの認定などの関連施策が進められています。また、ビジネス分野においては、<u>多くの企業が、自然環境の回復への貢献ができる選択肢を模索</u>しています。</p> <p>印西市においても、総合計画では、まちづくりの方向性として、「<u>自然と都市が調和する快適で人にやさしいまちをつくります</u>」を挙げています。また、第3次印西市環境基本計画では、「<u>里山の保全に向けた、市民・事業者・行政の協働に基づく保全及び活用の仕組みづくりを検討すること</u>」を施策としています。さらに、緑の基本計画も含めて、<u>グリーンインフラの活用・推進</u>を挙げています。</p>

	<p>■印西市の自然(里山)環境の保全・活用の意義</p> <p>印西市は、ニュータウン開発等により人口が増加し、また、多くの企業が誘致され、活動が展開される一方で、<u>市街地近郊に豊かな里山環境(台地上の草原・畑、樹林、湧水、水田、谷津等)が残されている稀有な地域</u>です。これらの里山環境は、生物多様性のみならず、<u>防災・減災、水循環、水質浄化、ウェルビーイング(幸福)の向上など、自然環境の有する多面的な機能を活かした「グリーンインフラ」</u>として、複合的な地域課題の解決にも寄与します。</p> <p>■印西市の自然(里山)環境の保全・活用に係る活動の現状</p> <p>市内には、前述の通り、里山の自然環境の保全や活用に関わる<u>市民活動団体が多数存在し、活動が展開されています</u>。また、<u>大学・研究機関等によるグリーンインフラ機能についての研究も数多く進められており、我が国におけるグリーンインフラ研究の先進地域</u>となっています。</p> <p>■協議会の継続運営の提案</p> <p><u>自然環境の保全に関心のある企業、市民団体、研究者、行政がそれぞれの強みを発揮し、市民団体間の連携を深めるなど、各主体が有機的な連携を図る</u>ことで、印西市の里山環境を良好に保ち、<u>グリーンインフラとして持続的に活用する仕組みを構築できれば、地域住民や企業が豊かな自然環境の恵みを享受し続けることに大きく寄与することが期待</u>できます。</p> <p>その実現のためには、<u>情報共有・連携を図るための土台となるプラットフォーム</u>の存在が効果的であり、本事業で令和7年4月に設置した協議会の継続的運営と協議会による様々な活動により、その役割を担うことができると考えます。</p>
<p>提案内容 (予算の概算は提案書様式①-4)</p>	<p>1)目標</p> <p>印西市内で活動する里山保全活動団体や市民、関心のある企業など、多種多様な主体の連携を図り、印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用に向けた管理体制を構築し、地域活性化に資する。</p> <p>2)対象とする里山(対象地)</p> <p>印西市が所有もしくは管理する里山的環境(台地上の草原・畑、樹林、湧水、水田、谷津等)を有する土地を対象地とします。なお、対象とする活動団体や取組等については、民有地における活動も対象とするものとします。</p> <p>3)協議会の継続的運営</p> <p>令和7年4月に設置した「いんざい里山グリーンインフラ推進協議会」を継続的に運営します。協議会では、印西市の里山環境の現状把握、管理目標、管理体制等について検討・議論・調整するとともに、企業を含む多様な主体との新たな連携に向けたアクションについて検討・議論します。</p>

①協議会の運営体制

令和7年4月のスタート時は以下のメンバーによって協議会を発足しました。

【当初メンバー(R7.4)】

印西市:環境保全課、市民活動支援センター

市民活動団体:NPO 法人亀成川を愛する会、NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会、NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク、一社 SODO(事務局)

研究機関:国立環境研究所(気候変動適応センター 西廣副センター長、大坂氏)

令和8年度は、発足時メンバーをコアメンバーとして位置付けるとともに、協議会のメンバーは希望する団体や庁内部局、事業者等にも間口を広げていくことを目指します。(既に関心をいただいている団体あり)

②協議会の開催方法・頻度

協議会構成メンバーの増加を目指し、コアメンバー会議(全体会議開催月を除き1回/月程度)、全体会議(年2回程度)を開催することを想定します。

区分	頻度	主な議題等
コアメンバー会議	1回/月程度*	協議会運営に関する事項、協議会での調査・検討に関する事項、イベントや取組の企画に関する事項
全体会議*	年2回程度	活動(里山の保全・活用)における課題の共有・議論 印西市における里山の保全・活用、グリーンインフラの推進に関する議論、先進事例等の紹介 など

※全体会議開催月を除く

全体会議は、協議会構成員に加え、オブザーバー参加も含めた開催を想定するものとします。また、後述する交流会を効果的に組み合わせ、市民活動団体等が協議会に参加しやすい環境を整えていきます。

協議会の開催場所は、会議の開催内容に応じて、印西市役所内の会議室やコスモスパレット等での開催を想定しています。

4)協議会での活動・取組(案)

当初想定する活動・取組は以下の通りとし、協議会での検討・議論等を踏まえて、適宜見直しや追加をしていきます。

活動・取組	概要
①事業の広報	・イベントでの広報 ・庁内勉強会 ・里山保全団体等の交流会 ・事業内容・事業成果のホームページでの情報発信
②対象地における取組の推進	・自然共生サイト登録の支援 ・対象地での活動の量的・質的向上の支援
③多様な主体の連携の推進	・里山保全団体等に対するヒアリング ・関係部局に対する連携可能性調査 ・事業者のニーズ等の把握
④対象地(市所有・管理地)の現況把握	・マップの更新・追加 ・自然環境調査委託との連携
⑤協議会の継続的な運営の在り方の検討	・協議会の継続的・発展的運営の検討

①事業の広報

取組や検討の成果を各種の広報手段により広く公表・周知していきます。

a) イベントでの広報

一般向けに、印西市の自然環境の現状・課題、グリーンインフラ・ネイチャーボジティブを活かしたまちづくり等について分かりやすく解説するとともに、本事業の目指す『多様な主体の連携による印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用』等の理解促進を図ります。

⇒イベント(市開催等:環境フェスタ等)への出展

⇒グリーンインフライベント(一般市民・若者・企業向け等)の開催

b) 市内勉強会の企画・開催

印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用を進めることは、印西市の行政施策の推進に寄与する場合も多く、関係部局との効果的な連携を図るため、グリーンインフラと市の施策の関わりや先進事例の紹介等を行うとともに、意見交換を行います。令和7年度に実施予定の勉強会での開催結果も踏まえて開催内容を企画し、開催します。

c) 里山保全団体等の交流会の企画・開催

広く市内で里山の保全活動や里山を活用した活動を行っている団体、このような活動に関心のある団体等を対象に、印西市の里山におけるグリーンインフラ機能の保全・活用等に関する講演等の情報提供や、各団体の活動における課題等について共有・意見交換を行えるような交流会を企画・開催します。

※取組の進捗状況や熟度等を踏まえ、事業者等の参加も検討

d) 事業内容・事業成果の情報発信(ホームページ)

事業で作成したマップや広報資料、協議会での議論の結果等について、HP※等で市民や企業に事業内容や成果をオープンに情報発信することにより、印西市の里山環境の保全・再生やグリーンインフラとしての持続的な利活用の重要性等の意識啓発や、取組への参加促進を図ります。

※提案団体のホームページでの情報発信(R7年度開始予定)を継続実施予定

②対象地における取組の推進

対象地(印西市所有・管理)において、以下に挙げるような取組を推進します。

a) 自然共生サイト登録の支援

対象地において自然環境保全等の活動を行っている市民活動団体等と連携して、自然共生サイト※1への申請・登録を推進します。

※1:自然共生サイト:「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域。認定区域は、保護地域との重複を除き、「OECM※2」として国際データベースに登録される。

※2:OECM:生物多様性の価値があり、事業者、地域、行政等による様々な取組によって、生物多様性の保全が図られている区域(国立公園など、既に保護されている区域を除く)

令和7年度、協議会メンバーである「谷田武西の原っぱと森の会」が保全活動を行っている「武西の里山」について、申請を行いました(審査中)。申請にあたって得られたノウハウを蓄積しながら支援を進めていきます。

b) 対象地での活動の量的・質的向上の支援

下記③に挙げている多様な主体の連携推進のための調査等を踏まえ、市民活動団体等による、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用に資する活動の量的・質的拡大を図ります。

具体的な手段としては、ヒアリング、全体会議、交流会などを通じた先進事例等の紹介、取組の実施を検討する団体との打合せ、研究機関や企業とのマッチングなどを想定します。

③多様な主体の連携の推進

多様な主体の連携による取組推進に向けて、各主体の課題やニーズ・シーズを調査・把握し、取組の推進につなげます。

a) 里山保全活動団体等に対するヒアリング

令和 7 年度の協働事業で整理を進めている市民団体等の現状を踏まえ、各団体等の課題を把握し、効果的な連携や提案を行うため、各団体に対してヒアリングを行い、詳細な活動内容や活動における課題、企業や行政との連携の可能性を調査・把握します。

b) 関係部局における連携可能性調査

グリーンインフラの推進と関連のある部局を中心に、グリーンインフラの推進に関連する行政課題の把握、連携の可能性の調査などを目的に、アンケートやヒアリングを実施し、連携可能性を調査します。

c) 事業者のニーズ等の把握

市内外の事業者のニーズを把握するため、提案者らが参加している別途プロジェクトでのネットワーク等を活用した情報収集により、事業者との連携の可能性や連携に向けた課題を調査します。

④対象地(市所有・管理地)の現況把握(マップ更新等)

令和 7 年度の協働事業で作業を進めている、印西市が所有または管理する土地(緑地等取組対象となり得る土地)の現状(自然環境の状況、管理状況等)を把握・整理した成果(マップ、リスト)をベースとして、以下の情報等の追加・活用を検討します。

⇒国立環境研究所での研究成果として作成されたポテンシャルマップ

⇒令和 7 年度から調査が開始される自然環境調査委託(環境保全課)での調査成果 等

⑤協議会の継続的な運営のあり方の検討

印西市の豊かな自然環境の保全・活用、グリーンインフラ施策の推進にあたっては、取組の継続性が重要であり、そのためには協議会の継続的・発展的運営が不可欠です。

千葉ニュータウン地区においては、産官学連携によるネイチャーポジティブの推進に向けたプラットフォームの設置などが継続的に議論されており、これらの動きとも有機的に連携し、望ましい体制について検討を行っていきます。

貴団体の特性、協働
で実施するメリット

■継続的な里山保全活動実績

共同提案者のうちNPO法人3者(亀成川を愛する会、谷田武西の原っぱと森の会、ラーバン千葉ネットワーク)は、市の保有・管理地を含む印西市内の里山保全活動を長年に渡って実践してきており、里山の現状や、今後の保全・活用における課題等について熟知しています。また、市内外の関連団体や企業、地域の方々との良好な関係を維持しており、事業を円滑に進めることができます。

■グリーンインフラの地域実装等に関する最先端の知見・ネットワーク

協議会での取組の推進体制には、グリーンインフラ・ネイチャーポジティブ及びその地域実装分野における我が国最先端の研究機関である国立環境研究所(気候変動適応センター 副センター長 西廣淳氏他)の協力を得られることとなっています。そのため、印西市におけるグリーンインフラの推進、ネイチャーポジティブの実現を図るにあたって、技術的支援や、最新の研究事例・国の動向等についての情報提供を受けることができます。また、国立環境研究所は、様々な研究機関や行政、企業等との連携により、北総地域での里山保全・活用の取組を先導しており、様々な地域主体とのネットワークを有していることから、事業を効果的に進めることができます。

■地域のグリーンインフラ分野に精通した協議会運営

共同提案者のうち一般社団法人SODO(協議会事務局担当)は、北総地域を中心とする千葉県内において、「生態系を賢く活かした豊かな地域づくりを推進する」ために設立された中間支援団体であり、地域の状況、行政の上位・関連計画など、本事業を進める上で必要となる情報に精通しています。また、市内外の関連団体や行政機関、企業等とのネットワークを有しており、事業を円滑に進めることができます。

■協議会の運営体制(コアメンバー)



- ✓ 市民活動団体間の連携の促進
- ✓ 企業や地域連携の促進
- ✓ ネイチャーポジティブの実現
- ✓ グリーンインフラの推進

地域の豊かなくらしの実現(すみやすい都市の実感)

継続実施により
得られる効果
(自由提案型は今後の
展望も記入)

■事業実施により得られる主な効果

本事業の実施により、以下に挙げるようなことが実現できます。

本事業で直接的に実現できること	結果として実現が期待されること
<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の継続的運営(市民・事業者・行政の協働による里山の保全・活用の仕組み) ・里山の保全・活用に係る市民活動団体間の連携促進 ・里山の保全・活用に係る地域、企業の連携促進 ・連携によって保全・維持されている里山(市有地)の自然共生サイト登録 ・印西市内の里山(市所有・管理地)の現状把握 ・HP等を通じた情報発信による市民・企業への広報、意識啓発、参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の保全・活用の推進 ・生物多様性の保全 ・グリーンインフラの推進 ・ネイチャーポジティブの推進 ・カーボンニュートラルへの貢献 ・地域の豊かな暮らしの実現 ・市民団体間の連携促進 (多様な主体の交流の場の創出)

■関連する印西市の施策

本事業は印西市の進める施策と広範に関わりがあり、以下に例示するような施策の実現に寄与することができます。

- ①印西市総合計画(自然との共生の実現)
- ②第3次印西市環境基本計画(樹林地・斜面林の保全、いきものの生息・生育空間の把握、多様な生態系の保全、水辺環境の保全、自然と調和したまちづくり、環境に配慮したまちづくりの推進、環境学習の場と機会の創出、各主体における環境配慮行動の推進、各主体間の連携促進、重点的な取組1:自然の力を活かそう!グリーンインフラ大作戦!!)
- ③印西市緑の基本計画(樹林地の維持管理の仕組みの充実、樹林地の保全、耕作放棄地の活用、水辺環境の保全、健全な水循環の保全、河川の水質改善、生物の生息・生育空間の保全、緑あふれる景観の保全、緑地保全・緑化推進団体の育成、自然環境の活用、市民参加による管理・運営の推進、市民による樹林地の保全・活用制度の創設、協働による里山の調査・保全、緑に関する情報発信)

■今後の展望

上記「提案内容」にも記した通り、印西市の豊かな自然環境の保全・活用、グリーンインフラ施策の推進にあたっては、取組の継続性が重要であり、そのためには協議会の継続的・発展的運営が不可欠です。

千葉ニュータウン地区において継続的に議論されている、産官学連携によるネイチャーポジティブの推進に向けたプラットフォームの設置などとも有機的に連携し、望ましい体制について検討を行っていきます。

共同提案者名簿一覧

(登録者) 登録番号 05-002

名称 NPO法人亀成川を愛する会
所在地 印西市木刈
代表者職氏名 理事長 小山 尚子
連絡先

(登録者) 登録番号 21-002

名称 特定非営利活動法人ラーバン千葉ネットワーク
所在地 印西市木下
代表者職氏名 理事長 丹澤 正直
連絡先

(登録者) 登録番号 23-003

名称 特定非営利活動法人谷田武西の原っぱと森の会
所在地 印西市小倉台
代表者職氏名 理事長 矢野 真理
連絡先

(登録者) 登録番号 —

名称
所在地
代表者職氏名
連絡先

※記入箇所が足りない場合は適宜追加してください。

(提案書 様式①-4 アイデア審査)

概算予算書

無償分を含む総事業費 (金 3, 385, 440 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 金 1, 708, 000 円

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費(技術的検討に係る部分)、イベント等開催経費	1,708,000
提案者が負担する額	旅費交通費、印刷製本費	130,000
その他収入		0
無償分を含めない合計額		1,838,000
無償労働力等換算金額	人件費(協議会等の開催に係る部分) 交通費(提案者以外が負担する額)	(1,547,440)
無償分を含む総事業費		(3,385,440)

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	①事業の広報	
	①-1 情報発信資料の作成、HPを通じた情報提供 10人日×25,200円 ^{※単価1}	252,000
	①-2 イベント等の企画・開催 15人日×25,200円 ^{※単価1}	378,000
	②対象地における取組の推進	
	②-1 自然共生サイト申請に係る検討 ※市保有・管理地の自然共生サイト申請に必要な情報整理、モニタリング計画策定、申請書類作成 10人日×25,200円 ^{※単価1}	252,000
②-2 対象地での活動の量的・質的向上 ※先進事例調査、団体との協議・調整等 7人日×25,200円 ^{※単価1}	176,400	
③多様な主体の連携の推進		
③-1 里山保全団体等に対するヒアリング等 7人日×25,200円 ^{※単価1}	176,400	

■単価の設定根拠

1) 専門技術を要する作業の単価 (単価 1)

以下に挙げる専門技術を要する作業については、国土交通省設計業務委託等技術者単価（コンサルタント単価）の最低ランクの技術者単価（技術員）の70%相当額の単価を採用

- ・GIS等専門ツールを用いた作業（マップの作成等）
- ・本事業を推進する上で必要となる専門的スキルを要する作業

令和7年度国土交通省設計業務委託等技術者単価

①設計業務

技術者の職種	基準日額(円)	割増対象賃金比(%)
主任技術者	88,600	55%
理事、技師長	77,500	55%
主任技師	66,900	55%
技師(A)	59,600	55%
技師(B)	48,500	55%
技師(C)	40,300	55%
技術員	36,100	55%

単価 1 : $36,100 \text{円} \times 70\% = 25,270 \text{円}$
 $\Rightarrow 25,200 \text{円}$
 ※100円単位未満切り捨て

(3) 設計業務等技術者

職種区分定義

- 主任技術者：先例が少なく、特殊な工法や解析を伴う極めて高度あるいは専門的な業務を指導統括する能力を有する技術者。
工学以外に社会、経済、環境等の多方面な分野にも精通し、総合的な判断力により業務を指導、統括する能力を有する技術者。
工学や解析手法の新規開発業務を指導、統括する能力を有する技術者。
- 理事・技師長：複数の非定型業務を統括し、極めて高度で複合的な業務のプロジェクトマネージャーを務める技術者。
- 主任技師：定型業務に精通し部下を指導して複数の業務を担当する。また、非定型業務を指導し最重要部分を担当する。
- 技師(A)：一般的な定型業務に精通するとともに高度な定型業務を複数担当する。また、上司の指導のもとに非定型業務を担当する。
- 技師(B)：一般的な定型業務を複数担当する。また、上司の包括的指示のもとに高度な定型業務を担当する。
- 技師(C)：上司の包括的指示のもとに一般的な定型業務を担当する。また、上司の指導のもとに高度な定型業務を担当する。
- 技術員：上司の指導のもとに一般的な定型業務の一部を担当する。また、補助員を指導して基礎的資料を作成する。

なお、職種区分定義で示されている定型業務、非定型業務については下記を参考に判断するものとする。

- 定型業務
- ・調査項目、調査方法等が指定されており、作業量、所要工期等も明確な業務
 - ・参考となる類似業務があり、それらをベースに応用することが可能な比較的簡易な業務
 - ・設計条件、計画諸元の設定等が比較的容易で、立地条件や社会条件により業務遂行が大きく作用されない業務
- 非定型業務
- ・調査項目、調査方法等が未定で、コンサルタントとしての経験から最適な業務計画、設計手法等を確立して対応することが求められる業務
 - ・比較検討のウエイトが高く、かつ新技術または高度技術と豊かな経験を要する大規模かつ重要構造物の設計業務
 - ・文化性、芸術性が特に重視される業務
 - ・先例が少ないか、実験解析、特殊な観測・診断等を要する業務
 - ・委員会運営や関係機関との調整等を要する業務
 - ・計画から設計まで一貫した業務

※本事業の実際の担当予定技術者は、主任技師相当～技師B相当の技術者となります。

2) 会議への参加（単価 2, 単価 3）

「謝金の標準支払基準」の改定について、平成 27 年 3 月 6 日、各府省等申合せを参考として単価を設定するものとし、区分 6（地方支分部局が開催する一般的なもの）を採用、1 回あたりの会議を 2 時間と想定

- ・ NPO 法人等：幹事・専門委員の単価を採用 ⇒単価 2
- ・ 国立環境研究所：委員・臨時委員の単価を採用 ⇒単価 3

第 2 支払基準

1. 会議出席謝金支払基準

懇談会等行政運営上の会合（以下「会合」という。）への出席に対する会議出席謝金の日額及び時間単価は、原則として別表 1 の標準単価を適用する。

会合の主催者や影響度等を考慮し、別表 1 の備考を参考として、依頼する職名ごとに別表 1 の職名に対応する標準単価の中から適宜単価を選択する。

ただし、職名によらず一律の単価を設定する会合にあつては、別表 1 の標準単価の中から、適宜（日額と時間単価は区別する）単価を選択する。

【別表 1】

単価 3

単価 2

(単位：円)

職名別 単価 区分	標準単価					
	会長		委員（会員）・臨時委員		幹事・専門委員	
	日額	時間単価	日額	時間単価	日額	時間単価
①	22,700	11,300	19,600	9,800	17,700	8,800
②	20,500	10,200	17,700	8,800	15,700	7,800
③	18,400	9,200	16,100	8,000	13,700	6,800
④	16,400	8,200	14,000	7,000	11,700	5,800
⑤	14,400	7,200	12,000	6,000	9,700	4,800
⑥	12,300	6,100	9,900	4,900	7,600	3,800
⑦	10,300	5,100	7,900	3,900	5,600	2,800

(備考)

- (1) 区分①は、中央府省等が開催する会合で最も上位とすることが適当としたもの。
- (2) 区分②は、中央府省等が開催する会合で上位とすることが適当としたもの。
- (3) 区分③は、中央府省等が開催する会合で一般的なもの（大規模）。
- (4) 区分④は、中央府省等が開催する会合で一般的なもの（中規模）、又は地方支分部局が開催する会合で最も上位とすることが適当としたもの。
- (5) 区分⑤は、中央府省等が開催する会合で一般的なもの（小規模）、又は地方支分部局が開催する会合で上位とすることが適当としたもの。
- (6) 区分⑥は、中央府省等が開催する会合で下位とすることが適当としたもの、又は地方支分部局が開催する会合で一般的なもの。
- (7) 区分⑦は、他の区分より下位とすることが適当としたもの。

(提案書 様式①-2 アイデア審査・最終審査)

協働の機会提案書(継続提案用)	
2025年 6月 16日	
(あて先) 印西市長	
(登録者)	登録番号 06 — 001
名称	印西市市民公益活動団体 Shake Hands
所在地	千葉県印西市草深
代表者	齊藤 ちぐれ
連絡先	
E-mail	shakehands.inzai@gmail.com
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。	
<input type="checkbox"/> 自由提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 指定テーマ型	
提案事業名	#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	男女共同参画に関わる啓発事業の実施
提案理由	<p>本団体 Shake Hands は、「子どもと保護者の“どうしよう”を解決する」ことを目的に、子育て支援とリプロダクティブヘルス/ライツの普及に取り組んできました。特に、思春期における生理や性に関する不安や疑問を解消する支援、親子間のコミュニケーション改善、生理用品の正しい知識提供、女性の健康意識向上を柱とした活動を継続的に実施しております。これらの取り組みを通じて、すべての子どもが性別に関係なく心身と生命の尊厳を大切にできる力を育むこと、そして多様性を尊重した地域社会の形成に寄与することを重視してまいりました。</p> <p>今回の事業テーマと当団体の活動は趣旨が極めて一致しており、これまでの知見と実績を活かすことで、男女共同参画の推進および市民への啓発効果を一層高めることができると考えております。そのため、本事業への参画を提案いたします。</p>
提案内容 (予算の概算は提案 書様式①-4)	<p>(前年度の実施を踏まえた改善内容)</p> <p>本事業では、地域住民が日常生活の中で気軽に立ち寄り、リプロダクティブヘルス/ライツに関する正しい情報と体験を通じた理解を深められる場を提供します。啓発イベントおよび個別相談の両軸で展開することで、</p>

	<p>知識の普及に加え、個別課題への対応も可能とします。</p> <p>① 体験型啓発事業「#私たちの保健室」の開催（全1回）</p> <p>ショッピングモール等の生活動線上に位置する会場において、老若男女を対象とした体験型イベントを開催します。</p> <p>主な内容：</p> <p>01. 展示コーナー</p> <p> リプロダクティブヘルス/ライツに関するパネル展示、関連書籍・性教育絵本の展示、多種多様な生理用品の実物展示</p> <p>02. 体験・学習プログラム</p> <p> 初めての生理講話（思春期の体と心の変化、生理用品の使い方）、生理用品を使った吸水実験、性教育絵本の読み聞かせ、フェムケアアイテム（アロマクリーム）制作体験、EMS 機器による生理痛体験（男性、軽度な生理痛女性の理解促進）</p> <p>03. 専門家による講話</p> <p> 須藤えり奈氏（看護師/分子栄養学アドバイザー）、原田加奈子氏（理学療法士）</p> <p>② 個別相談支援事業「こっトンカフェ」の開催（全5回）</p> <p>2ヶ月に1回、男女共同参画センターにて個別相談の場「こっトンカフェ」を定期開催します（当日自由来所制）。安心して過ごせる落ち着いた空間で、掲示物や展示物を通じて正しい情報に触れることができ、来所者自身が抱える課題について、相談員とゆっくり対話を重ねながら解決の糸口を探ります。必要に応じて、行政等の支援機関への同行・連携も行い、課題の早期解決と継続支援に繋げてまいります。</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット</p>	<p>Shake Hands は、子どもや家庭の現場に深く関わる“当事者視点”を重視しながら、専門性と実行力を備えた多様な人材によって構成された団体です。構成員は全員、小・中・高生の保護者であり、地域での実践的な経験を通じて、子育てや教育に関する社会的ニーズを的確に捉える力を有しております。</p> <p>【特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・同性・当事者の視点に基づいた課題把握力 ・多分野にわたる専門資格と現場経験 <p>（例：PTA・保教会本部役員（2018～2025）、子育て支援員、認知症サポーター、民生委員・児童委員、ピアヘルパー、幼児体育初級公認指導員、おもちゃインストラクター、こども環境管理士 2級、幼稚園教諭、保育士、特別支援学校教諭、社会福祉主事、インクルーシブ保育・教育支援士、</p>

	<p>体験活動セイフティリーダー・マネージャー、EFR-CFC（子どもの救急法国際資格）、准学校心理士、高等学校教諭一種免許 等）</p> <p>【協働のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略立案から現場運用までを一貫して担える体制 ・行政施策と連動した、地域ニーズに即した柔軟なアプローチ ・現場経験に基づく実効性の高い企画 ・運営力、継続可能な支援体制と地域との信頼関係の構築 <p>Shake Hands は、「地域と子どもの未来に寄り添う協働パートナー」として、行政と連携しながら、住民福祉の向上と持続可能なまちづくりに真摯に取り組んでまいります。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)</p>	<p>本事業を継続的に実施することにより、印西市が掲げる「誰もが安心して暮らせる共生社会の実現」や「子育て世代への切れ目ない支援」「健康・福祉の増進」といった市政方針との整合を図りながら、具体的かつ実効性のある地域支援を推進することが可能となります。</p> <p>定期的な啓発イベントの開催により、リプロダクティブヘルス/ライツに関する知識やジェンダー平等に関する意識が地域全体に浸透し、子どもから大人までが世代・性別を超えて互いを尊重し合う地域風土の醸成が期待されます。特に思春期の子どもや保護者に対する情報提供は、心身の健やかな成長や家庭内コミュニケーションの改善にも寄与し、教育・福祉両面に好影響を及ぼします。</p> <p>また、2ヶ月に1回開催する個別相談支援「こっトンカフェ」の継続により、地域住民が日常的に安心して悩みを相談できる場を確保するとともに、行政や関係機関との適切な連携を通じて、早期支援・予防的支援の実現が可能となります。とりわけ、支援にアクセスしにくい層へのアプローチ手段としても有効であり、地域福祉の裾野拡大にも資する取組です。</p> <p>以上のことから、本事業は印西市のまちづくりの基本理念と合致しており、継続実施により、地域住民の健康・福祉・教育・共生の各分野にわたる波及的な効果が期待されます。</p>

(提案書 様式①-4 アイデア審査)

概算予算書

無償分を含む総事業費 (金 1,137,740 円)

うち市に負担を求める額 (委託費) 金 925,540 円

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求める額		925,540
提案者が負担する額		0
その他収入		0
無償分を含めない合計額		925,540
無償労働力等換算金額	無償労働力 211,200 円、ボランティア保険 1,000 円	(212,200)
無償分を含む総事業費		(1,137,740)

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	① 体験型啓発イベント②個別相談 ※添付資料参照	260,000
報償費	外部・内部講師指導謝礼 ※添付資料参照	475,000
旅費・交通費	外部講師交通費、交通費(ガソリン代) ※添付資料参照	19,900
印刷製本費	告知チラシ、ポスター、プログラム等 ※添付資料参照	31,000
使用料	会場使用料 ※添付資料参照	22,000
消耗品費	※添付資料参照	114,000
保険料	傷害保険@28 円 ※添付資料参照	3,640
無償分を含めない合計額		925,540
提案者が負担する 無償労働力(A)	※添付資料参照	(211,200)
提案者が負担する	ボランティア保険	(1,000)

無償機材等(B)		
無償労働力等換算金額	(A) + (B)	(212, 200)
無償分を含む総事業費		(1, 137, 740)

※上記金額は、提案内容を示す**概算予算書**です。アイデア審査通過後、提案書様式③にて
詳細を提出頂き、最終審査で選定されます。

※歳出の項目例は **29** を参照してください

番号	品目	01啓発イベント (1回)	02個別相談 (5回)	計	
1	人件費	講座及びプログラム作成	128000	132000	260000
2	報償費	外部講師謝礼・団体内講師謝礼	475000	0	475000
3	旅費	外部講師交通費	13000	0	13000
		交通費 (ガソリン代)	3600	3300	6900
4	印刷製本費	チラシ・ポスター・講座プログ	16000	15000	31000
5	保険料	傷害保険	2800	840	3640
6	使用料	会場使用料	22000	0	22000
7	通信費	電話・FAX	0	0	0
8	消耗品費	文具・インク・用紙	104000	10000	114000
9	無償分を含めない合計額		764,400	161,140	925540
10	提案者が負担する無償労働力 (A) 事業の準備・調整		52800	158400	211200
11	提案者が負担する無償機材等 (B) 損害保険 (@100×10名) /年		-	-	1000
12	無償労働力等換算金額		52800	158400	212200
13	無償分を含む総事業費		817,200	319,540	1137740

番号品目	イオン啓発イベント（講師あり）	単価	数量	単位	計	備考
1 人件費	講座及びプログラム作成		2200	32 h	70400	人件費 = ¥2200/h × 8h × 4人
			1200	48 h	57600	人件費 = ¥1200/h × 8h × 6人
2 報償費	外部講師謝礼・団体内講師謝礼		475000	1 式	475000	内部講師¥5000/日 × 1人、外部講師①¥15000/日 × 2人、外部講師②¥440000/日
3 旅費	外部講師交通費		13000	1 式	13000	内部講師1名¥1000、外部講師①2名¥1000 × 2名、外部講師②2名¥5000 × 2名
	交通費（ガソリン代）		30	120 km	3600	イオンホール往復12km × 10人
4 印刷製本費	チラシ・ポスター・講座プログラム		16000	1 式	16000	* チラシ制作@30 × 100、ポスター@400 × 30、プログラム制作@20 × 50人
5 保険料	傷害保険		28	100 人	2800	
6 使用料	会場使用料		22000	1 式	22000	イオンホール会場
7 通信費	電話・FAX			0 式	0	
8 消耗品費	文具・インク・用紙・生理用品		104000	1 式	104000	ナプキン・ショーツ@600 × 100人=60000、実験道具@600 × 30人=18000、文具¥6000、装飾品¥2000、アロマ材料費@600 × 30人=18000
9 無償分を含めない合計額					764400	
10 提案者が負担する無償労働力（A）	事業の準備・調整		2200	24 h	52800	デザイン制作8h、資料制作8h、企画打合4h、進捗管理4h
11 提案者が負担する無償機材等（B）			0	0	0	
12 無償労働力等換算金額					52800	
13 無償分を含む総事業費					817200	

番号品目	個別相談	単価	数量	単位	計	備考
1 人件費	講座及びプログラム作成	2,200	60	h	132000	人件費=¥2200/h×6h×2人×5回
2 報償費	外部講師謝礼・団体内講師謝礼	0	0		0	
3 旅費	外部講師交通費	0	0		0	
	交通費（ガソリン代）	30	110	km	3300	コスモスパレット往復11km×2名×5回
4 印刷製本費	チラシ・ポスター・講座プログラム	15,000	1	式	15000	*チラシ制作@30×100、ポスター@400×30
5 保険料	傷害保険	28	30	人	840	6人×5回
6 使用料	会場使用料	0	0		0	
7 通信費	電話・FAX	0	0		0	
8 消耗品費	文具・インク・用紙・生理用品	10,000	1	式	10000	文具¥4000、インク代¥5000（cannon家庭用インク年間コストサイト参照）、用紙¥1000
9 無償分を含めない合計額					161140	
10 提案者が負担する無償労働力（A）	事業の準備・調整	2,200	72	h	158400	デザイン制作8h、資料制作8h、企画打合4h、進捗管理52h(1h×52週)
11 提案者が負担する無償機材等（B）		0	0		0	
12 無償労働力等換算金額					158400	
13 無償分を含む総事業費					319540	